



鹿の浦でみられる素波里安山岩

## 素波里安山岩と白瀑神社と日本酒と

白瀑神社は、台地に刻まれた谷の奥深くにあり神秘的な雰囲気があります。神社名の由来にもなっている白瀑は、たいへん豪快な滝で迫力がありますね。この滝を作っている岩をご覧になったことはあるでしょうか？無数の角ばった凹凸といい、その荒々しいたずまいといい、鑑賞の価値のある味わい深い岩だと思っています。

この岩は、専門家から「素波里安山岩」と呼ばれています。

この岩はどうやってできたのでしょうか？話は突然何百万年前もさかのぼります（正確には300万年前から1000万年前）。このころ、八峰町は海の底でした。その海底には泥や砂がゆつくりとたまっていたのです。そこにマグマがあがってきて火山活動が始まります。噴火した場所は、海底ですので、海底火山ということになります。その一部が白滝で見えているというわけです。

このようにしてできた海底火山でできた岩が、「素波里安山岩」と呼ばれています。素波里とは地名（藤里町の素波里ダムの素波里です）、安山岩は岩石の種類です。

「素波里安山岩」は、樺の海岸から、泊川、薬師山にかけて広がっています。岩そのものが見える場所は海岸や滝などに限られますが、八峰町の多くの方がこの安山岩の上で暮らしています。

素波里安山岩にはとても人の役に立つ良いことが二つあります。

一つはたいへん固い地盤になっていることです。これは白滝で岩を見るとなるほど納得していただけだと思います。私事になりますが、私の住む秋田市の地盤はやわらかくて、地震の時、揺れが大きく

なります。そんな私から見ると八峰町は地盤が固くてうらやましい……。

また、素波里安山岩は他の岩石に比べるとスキマや穴や割れ目が多くあります。実はこのようなスキマや穴や割れ目には水が入りこみやすいので、素波里安山岩の中には地下水がたまります。山本合名会社でつくられる「白瀑」は、素波里安山岩からわきだしてくる水を、酒蔵までひいて作られています。このわき水はとてもやわらかい口当たりですが、お酒にもその特徴がでているような気がします。

というわけで、「素波里安山岩」は「地盤」、「水」という面でもくらしに役立っているのです。

さて、今晩は、白瀑神社を思い浮かべながら「白瀑」を飲んで、「素波里安山岩」の恵みを味わうこととしましょう。つまみは、もちろん八峰町の野菜と魚。どうぞごちそうさまです。



白瀑の崖は素波里安山岩

秋田大学教育文化学部 教授 林 信太郎

〒018-2612

秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116

旧岩館小学校内

TEL 0185-78-2427